

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	旭区
学校名	大阪市立旭陽中学校
学校長名	中西 洋

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・旭陽中学校では、第3学年 187名

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語A、国語B、理科とも大阪市平均正答率を上回っている。国語は「話すこと・聞くこと」の力が高い。理科は「自然現象についての知識・理解」が高い。数学A、数学Bは大阪平均正答率より低く、特に数学B「数と式」が弱い。しかし、家庭学習の定着に組織的に取り組み、平日の家庭学習が2時間の割合は、全国を上回った。生徒質問紙で、自分たちで課題を立てて、話し合いながら整理して発表する学習活動についての肯定的な回答が全国平均を上回った。これは、学校教育ICTモデル校として3年間取り組んできたことにより、協働学習に取り組み課題を解決し発表する学習が増えた成果である。「自分には良いところがあると思いますか」等、自尊心に関する項目の肯定的な回答が全国平均を上回っている。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語A、国語B共に大阪市平均正答率を上回っている。「話すこと・聞くこと」の力が高い。しかし、「書く力」が弱い。読書の習慣も低い結果となっていることから、読書活動の充実、論理的思考の育成のために更にアクティブラーニングの研究を進める必要がある。

〔数学〕数学A、数学B共に大阪市平均正答率より低い。「数と式」が弱く、学力の2極化も見られる。習熟度別少人数授業の充実を図り、基礎学力の定着を図る必要がある。「資料の活用」は大阪市平均正答率を上回っている

〔理科〕主として「知識」に関する問題の平均正答率が大阪市平均を上回っている。知識・理解は基礎基本の充実により、力がついている。特に、自然現象の領域では理解度が高い。自ら学び、論理的思考育成のために、協同学習の研究を進める必要がある。

質問紙調査より

「1、2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題をたてて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」等の質問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。学校教育ICTモデル校として、3年間ICT機器を活用した協同学習の中で、自分の考えを発表する場面が増え論理的思考の育成を図った。また、「将来の夢を持っている」「学校の規則を守っている」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことはありますか」等、自尊心に関する質問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。多くの生徒が規律ある学校生活を送り、行事が生徒中心に充実している成果である。

今後の取組

国語は「書くこと」の力が弱いので、読書活動の充実と、ICT機器を活用したアクティブラーニングの授業研究を進め、学力向上を図る。数学は習熟度別少人数授業の充実を図り、基礎学力の定着を図る。また、ICT機器を活用した協同学習により、論理的思考力をつけて学力向上を図る。理科においては、「活用」に関する問題を解く力が弱かったので、ジグソー学習を取り入れたアクティブラーニングの研究を進め、論理的思考力を高めて学力向上を図る。本年度より、家庭学習の習慣化を学校全体で取り組んできたが、勉強する生徒としない生徒の二極化が見られる。更に多くの生徒の定着を図るため、継続して取り組みを続ける。また、基本的な生活では、携帯電話やスマートフォンで、メールやインターネットをする時間が2時間使用が57.2%と、全国平均を上回っている。保護者、地域と連携して家庭での使い方についてルールを決められるよう発信していく